

道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

## 北海道創生ジャーナル

# 創る

Vol. 13

2019.12

その先の「直へ」。北海道  
Hokkaido, Expanding Horizons.

## contents

### 01 特集

「北前船」と地方創生  
日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間  
～北前船寄港地・船主集落～」

### 07 地域が動く・プロジェクト最前線

07 ① 留萌市  
「音楽合宿」のまち留萌

09 ② 安平町  
道の駅「あびらD51ステーション」  
による地方創生

11 ③ 上川町  
KAMIKAWORKプロジェクトの取り組み

### 13 「なおみちカフェ」から ～地域創生のヒントを探る～

知事が地域訪問する機会に地域で活躍されている方をお訪ねし、その様子を紹介するコーナー

13 檜山編 北海道奥尻高等学校

14 オホーツク編 オホーツク楽器工業株式会社

画  
提

像：旭川商業高等学校 吹奏楽局 音楽合宿（留萌市）  
供：一般社団法人 留萌青年会議所

# 特集

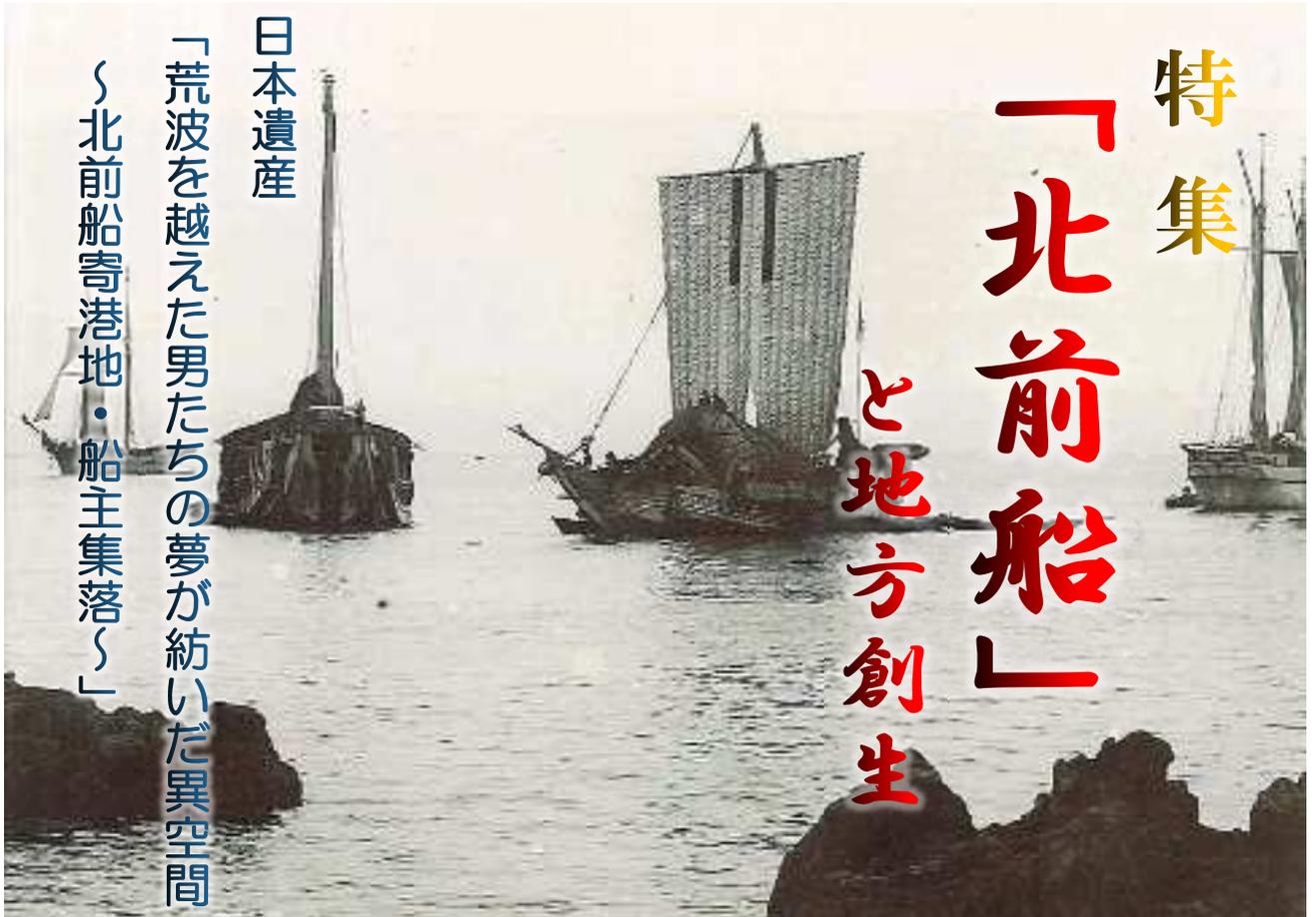
# 「北前船」

## と地方創生

### 日本遺産

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間  
く北前船寄港地・船主集落く」

【立岩前の北前船（小樽市）】小樽市総合博物館蔵



平成29年4月、函館市・松前町が北前船寄港地・船主集落として日本遺産に認定され、平成30年5月には小樽市・石狩市が追加認定されました。今回の特集では、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」を取り上げるとともに、構成自治体の取組や令和元年10月19日、20日に開催された「第28回北前船寄港地フォーラム in 北海道小樽・石狩」を紹介します。

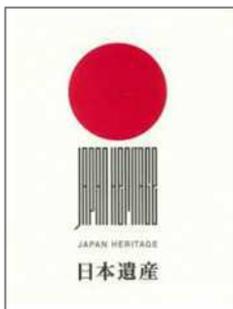
### 日本遺産とは？

日本遺産は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力ある有形・無形の様々な文化財群を、地域が主体となつて総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的とする取組です。平成27年度から認定が始まり、令和元年度現在、日本遺産は全国で83件、北海道では4件認定されており、文化庁では令和2年度までに100件程度の認定を目指しています。

### 北前船寄港地・船主集落とは？

江戸中期から明治にかけて、北海道・東北・北陸と西日本を結んだ西廻り航路は経済の大動脈であり、この航路を利用した商船は北前船と呼ばれました。北前船は、米をはじめとした物資の輸送から発展し、船主自身が寄港地で仕入れた多種多様な商品を、別の寄港地で販売する買い積み方式により利益をあげたことから「動く総合商社」と形容されています。日本海や瀬戸内海沿岸に残る数多くの寄港地・船主集落は、北前船の壮大な世界を今に伝えています。



【日本遺産ロゴマーク】



【明治36年の小樽港の写真】  
小樽市総合博物館蔵

## 道内の日本遺産



【旧中村家住宅と町並み（江差町）】

### 江差町

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りに、切妻屋根の建物が建ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられています。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえます。

この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とその加工品の交易によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどでした。ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く連綿と息づいています。

「江差の五月は江戸にもない  
ニシンの繁栄が息づく町」  
(H29認定)



【厳島神社（函館市）】

### 函館市、松前町、小樽市、石狩市を含む16道府県の45市町

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけています。

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間  
北前船寄港地・船主集落  
(H29認定、H30・R元追加認定)



【大雪山の雄大な自然】

### 上川町、旭川市、富良野市、愛別町、上士幌町、上富良野町、鹿追町、士幌町、新得町、当麻町、東川町、比布町

美しく厳しい大雪山のふところに、カミイノ神々を見出し共に生きた「上川アイヌ」。彼らは激流(はげし)を奇岩の渓谷に魔神と英雄神の戦いの伝説を残し、神々への祈りの場として崇めた上川アイヌの聖地には、クマ笹で葺かれた家などにより「コタン（集落）」を形成し祈りを捧げ続けています。上川アイヌは「川は山へ潮(うしほ)る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミントラノ神々の遊ぶ庭々として崇拜してきました。神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいています。

「カムイと共に生きる上川アイヌ」  
大雪山のふところに伝承される神々の世界  
(H30認定)



【友友奔別炭鉱立坑櫓（三笠市）】

明治の初めに命名された広大無辺の大地「北海道」。その美しくも厳しい自然の中で、「石炭」「鉄鋼」「港」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。

当時の繁栄の足跡は、空知の炭鉱遺産、室蘭の工場景観、小樽の港湾、そして各地の鉄道施設など、見る者を圧倒する本物の産業景観として今でも数多く残っています。100km圏内に位置するこの3地域を原動力として、北海道の人口は約100年で100倍になりました。その急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、これまでにない北海道の新しい魅力として、訪れる人に深い感慨と新たな価値観をもたらしています。

「本邦国策を北海道に観よ！」  
北の産業革命「炭鉄港」  
(R元認定)

たかだ や やしきあと  
【高田屋屋敷跡】



北前船で財をなした高田屋は箱館に屋敷を構え、蝦夷地の拠点としていました。

はこだて ぶ ぎょうしょあと  
【箱館奉行所跡】



北前船で運ばれたとされる越前産の笏石が礎石に使われていた奉行所。

はこだてやま  
【函館山】



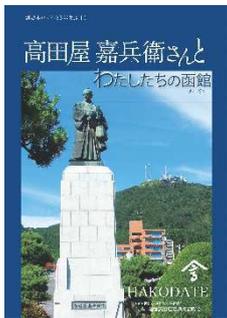
北前船の船乗りたちが出港前に日和をみた場所。

# 「函館市」

ストーリーを構成する主な文化財と地域活性化のための取組

歴史を次代へつなぐ

函館市と商工会議所などで構成される箱館高田屋嘉兵衛顕彰会では、北前船交易を通じて財を築き、箱館のまちづくり積極的に投資した高田屋嘉兵衛の功績を広く知ってもらうため、小学校3・4年生向けの副読本「高田屋嘉兵衛さんとわたしたちの函館」を作成し、市内の小学校へ配布しました。また、北前船日本遺産の認定自治体としての活動の一環で、地域への普及啓発を目的とし、無料の資料展示を市内各所にて開催しました。



まつまえ びょうぶ  
【松前屏風】



18世紀中頃の松前城下を描いたものとされ、作者は、松前出身の画家・龍門斎見玉貞良。

おきのくちやくしょあと  
【沖口役所跡】



旅人や物資の取締りを行う機関で、北前船や積荷の役金（税金）の徴収も行っていました。

ふくやま は と ば  
【福山波止場】



すほらこえもん 栖原小右衛門たち豪商の寄付と、明治政府からの借入金をもとに、明治8年に竣工。

# 「松前町」

ストーリーを構成する主な文化財と地域活性化のための取組

「松前祇園ばやし」の保存伝承活動

「松前祇園ばやし」は、北前船交易により近江商人たちにより伝えられたとされ、19世紀初頭に記された「松前歳時記草稿」によれば、松前城下祭の山車巡行の囃子で、元々は15曲あったといわれていますが、現在は、松前郷土芸能保存会により12曲が守り伝えられています。

北海道立松前高等学校では、「松前学」として郷土の歴史を学習するカリキュラムがあり、高校生が松前郷土芸能保存会のメンバーから松前祇園ばやしを教わることで、江戸時代から続く郷土芸能の保存伝承に努めています。

平成31年に開催された松前町郷土芸能大公開では、高校生が松前祇園ばやしを披露する場面も設けられました。

